

学校の節目の式典

はぐくむ

メモの大切さ伝えたい

聞くこと、メモすることの大切さを生徒たちや学校説明会に来てくれる受験生に話し続けている。メモする力は、聞く(インプット)、考える・整理する、書く(アウトプット)の総合的な力で、「話す・表現すること」につながる。生徒たちが大人になって仕事をしたり、人とコミュニケーションをとったりする時にきつと役に立つと思う。

先週の始業式、入学式で、新しい年度がスタートした。学校には入学式、三つの学期での始業式、終業式と卒業式の8回の節目となる行事がある。式典としての厳粛な進行は欠かすことはできないが、学校が発するメッセージを生徒たちがしっかりと受け止め、理解できるように式典の仕組みを変えたいと思っている。

目的の一つは、彼らがメモをとって考える機会をつくること。式での進路指導主任や生徒指導主任、校長の話は、学校での学びについて目標を再確認してもらおうことや、安心安全のための注意喚起だ。

しかし、そのメッセージをメモをとらずに漫然と聞いたとき、本人たちがどれだけ理解して、自分の行動に結びつけているのか。以前から気になっていた。入学式、卒業式は来賓、保護者をお招きしての式典で、なかなか式典のやり方を変えることはできないが、始業式、終業式は工夫できる方法があるはずだ。

3年前から、始業式や終業式ではメモをとることができない生徒に代わり、担任がメモを取り、その話題について話をするということを試みてきた。

当日朝の打ち合わせで、その日に話す主題を職員に説明し、生徒たちの代わりにメモをし、それを題材にホームルーム(HR)で話をしてくれるように依頼する。式典後のHRで式での話題について話し合いながら、生徒たちの理解する力、表現する力を養うことを目指してきた。最終的には生徒自身がメモをとることの意義をわかってもらうことが重要だ。

始業式の次の式典は7月下旬の終業式。おそらく体育館は猛暑の中なので、体育館と教室との双方向映像配信になる。生徒一人ひとりと対面できないのは残念ではあるが、教室で生徒自身がメモを取り、担任と話のできる式典になるように担当教師と相談している。

これなら、時差は気になるが海外留学している生徒もユーチューブの同時配信で式に参加できるかもしれない。

(大妻嵐山中学・高校校長
真下峯子)